

ずうっとなっても、 $y$  はもとの $\frac{1}{2}$ 、 $\frac{1}{3}$ になっていないから、反比例ではない。

円谷 うん、そうだね。ここから、 $x$  の値が2倍、3倍になっても、それに対応する  $y$  の値は、 $\frac{1}{2}$ 、 $\frac{1}{3}$  になってはいないから、反比例ではない。みんないいですか。これでいいね。この問題では、 $y$  の値がだんだん小さくなっていくんで、ちょっとひっかかり易い問題だったよね。C子ちゃん、説明もよかったし、よくできたね。はい、席に帰ってよろしい。

(略)

### 事後研究会での考察など

#### 1. 観点No 1, A児に対するはたらきかけについて

• A児の「～おもりはだんだんとっていく」という表現を取り上げ、その表現が適切でないことを指摘し、対話によって、「おもりの重さは軽くなる」という表現を引き出してやったのはよかった。ただ、そのあと、「うん、そうだね。そのほかに…」と、次にうつるのが早かったため、是認の仕方が少し弱かったような気がする。一度は考えさせて、良い表現を引き出したのだから、ここではもう少し強い認め方があっても良かったのではないか。

#### 2. 観点No 4, B児に対するはたらきかけについて

• B子の「 $y$  かける  $x$  が全部1200になる」という答えに対して、「 $y$  かける  $x$  か、すなおに、 $x$ 、 $y$  の順序にして、 $x$  かける  $y$  といってもいいね。～」について、

• B子は、観察によれば、表から、

うでの長さ $x$ (cm)	4	8	12	16
おもりの重さ $y$ (g)	300	150	100	75

$$300 \times 4 = 1200, \quad 150 \times 8 = 1200$$

$$100 \times 12 = 1200, \quad 75 \times 16 = 1200$$

と計算していた。この計算をみると、大きい数字を前に書いて計算している。B子は、小さい数字を前に書いて計算するよりは、この方が計算し易いためにこのように計算をして、このことから  $y$

を先に出して「 $y$  かける  $x$  が全部1200になる」と発表したものと思われる。したがって、机間巡視の際に、このことに気づいていたならば、B子が  $y$  を先に出して発表したこの理由についても説明させ、その上で、 $x$ 、 $y$  の順序にして、「 $x$  かける  $y$  が全部1200になる」とまとめるべきではなかったか。つまり、B子の正しく考えたことを、まちがいをなく全体に知らしめること、これも個を認めるはたらきかけであろう。

• この部分で、Mさんの「商が一定にならない」という答えをヒントにして、もう一度B子にはたらきかけ、「 $y$  かける  $x$  が全部1200」という最初の答えから、「 $x$  と  $y$  の積が一定になる」という答えを引き出させたのは、大変よかった。

#### 3. 観点No 5, A児に対するはたらきかけについて

• A児が、それに対応する、ということばがでてこなかったのを、それをH子に助けさせたが、ここでは、もう少しA児に考えさせるべきであった。H子に助けられた後では、A児を認めるはたらきかけは弱くなっている。

#### 4. 観点No 6, C児に対するはたらきかけについて

• 机間巡視の際、C子が正答を出しているのを確かめておいて、ここで、みんなの前に出して発表させたことは、気の弱いC子を認めるはたらきとして大変よかった。

(事実、授業終了後、今日の授業についての感想を、C子にさりげなく聞くと、C子は「今日は、いっぱい先生方に見ていられてあがってしまったけれど、みんなの前でうまく説明できてとってもうれしかった」とほんとうにうれしそうな顔で話してくれた。)

#### 5. その他

• 児童の話す内容は、最後までよく聞いてやること、これが個を認める第一歩であろう。

• この事後研究会の成果を、明日からの授業に生かしてこの研究を継続すること。